

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2年集中	2	1	選択
担当教員			
インターンシップ担当教員			
添付ファイル			

講義概要	<p>インターンシップは、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」です。静岡理科大学は、地域社会や地域の産業界との密接な関係を特長としています。本学の周辺地域は輸送機器関連や食品、化学、電子など先端技術を核とする各種の企業が立地する一方で、茶やメロンの栽培、製茶業といった地場産業も盛んで、産業のパラエティに富んでおり、極めて恵まれた実習環境であると言えます。</p> <p>本学のインターンシップでは、「企業における実習・研修」を広い意味にとらえ、単なる技術教育の一部ではなく、人格形成・教養教育の一つの手段として幅広い社会活動への参加により社会体験を獲得することを目的としています。この科目は、実習企業での実務経験のある担当者が行う科目である。</p>
授業計画	<p>過去に行われた実習テーマの事例</p> <p>[機械設計・開発・などの分野] 鍛造、金型の設計・製作現場を学ぶ。CAD設計を通じて物作り体験。CADによる機械設計。開発・設計現場において開発業務を体験する。エレベータ部品の設計。開発品の試作、製作、評価。モーターサイクル用ダンパーに関する開発試験。健康関連機器の開発補助。</p> <p>[生産・機械加工・試作・もの作り・などの分野] 機械加工実習。放電加工実習。細穴放電加工。塑性加工。マシニングセンタによる製作。NC工作機械を使用した部品製作及び精度測定。NC旋盤による部品の試作。各種工作機械を扱い精密機能部品の切削加工と寸法検査。金型仕上げ（ラッピング）の機械化。ショックアブソーバの試作組立・ベンチテスト。オートバイマフラーの製造工程。射出成形機を使ってデザート容器の生産・管理。導入設備の加工条件の設定と設定結果のまとめ。製造作業と生産の仕組み、製造技術、品質管理の取り組みを学ぶ。製造工程における部品の流れと加工方法。物作りを通じて職業人の体験をする。陶芸補助（てびねり成形・ロクロの成形・装飾の成形）。</p> <p>[検査・測定・実験・などの分野] 位置決めXYテーブルの評価実験。自動車部品の振動特性測定。CAEによる振動解析。製品の寸法測定及び成形・検査の補助作業。品質管理全般及び検査測定業務。精密測定装置の精度解析。金属疲労分析。金属組織と特性の関連。生産設備の構造及び最適運転条件の設定。</p> <p>[企業経営・管理・などの分野] 中小企業の製造業の業務遂行の実状の実習。ベンチャー企業の経営現場。生産効率改善業務。製造方法とコストの差異。作業工程管理について。新製品のマーケティング。</p> <p>[電気・電子関係の開発・などの分野] 電子制御機器の試作品実験データ取り。超音波応用機器の設計開発。AutoCADによる電気回路図面の設計。高速精密送り装置のモーター及びドライバーの特性解析。微細認識用光学系における照明の解析。電子部品の評価検査。電子連動装置について。</p> <p>[物質科学関係の開発・実験・などの分野] 香料物質の製造業務。化粧品製造の品質管理。微生物応用による開発試験。有機化合物の合成実験。初心者用機器操作マニュアルの作成。し尿の各処理工程のシステム管理と作業実習。銅合金の透過電顕による組織観察。</p> <p>[情報関係などの分野] ホームページ制作。物流業務と物流系情報システムの現場実習。データ収集プログラムの作成。プラズマディスプレイの特長を生かしたデータベースソフトの作成。ソフト開発における標準作業工程の概要。Linux のリアルタイム制御。画像処理システムの構築。電子書庫による図面管理システム及び紙媒体によらない図面配布システムの構築。図書館業務の実際。</p> <p>[福祉活動などの分野] NP O活動の実態を実践を通して理解。市民参加の地域福祉活動。知的障害者との勤労体験。乳幼児の保護と育成。重度障害者の生活援助、機能訓練の介助。高齢者の援助を通じて個人の尊厳を考える。利用者のお世話、施設・備品の清掃。</p>
授業形態	<p>講義演習（事前研修および事後研修・報告会）および企業等における実習 アクティブラーニング：①0回、②0回、③0回、④1回（事後研修会）、⑤13回（企業等における実習）、⑥0回</p>
達成目標	<p>a) 就業体験としての勤務態度および勤務状況が良好である b) 実習において、よく実行、行動、努力する c) 積極的に成果を得ようとする姿勢で実習担当者の高い評価を得る d) 活動において、創意工夫の姿勢が認められる e) 仕事に対する責任感、または協調性が認められる f) 良好な実習の成果を得て優れた報告書をまとめる</p>
評価方法・フィードバック	<p>事前研修および事後研修・報告会の活動状況25%、実習終了時に提出するレポートの内容25%、実習状況など10項目に関する企業側担当者の評価50% 研修期間は5日以上とし、研修期間が満たない者は単位修得を認めない 原則として、課題等のフィードバックは次回以降の授業内やWEB等を通じて行うが、具体的な方法・タイミングなどは指導教員より都度伝える</p>

評価基準	1)「秀」：100～95点（6項目達成） 2)「優」：94～85点（5項目達成） 3)「良」：84～75点（4項目達成） 4)「可」：74～60点（3項目達成） 5)「不可」：60点未満（3項目以下未達成）
教科書・参考書	なし
履修条件	なし
履修上の注意	1)夏期休暇中に実施するが、履修登録は後期に行い、後期の単位として認定される 2)事前研修の受講が履修のための必須要件である
準備学習と課題の内容	1)事前研修で学んだことは必ず実行できるようにする。 2)必要な書類の提出及び期限を守ることは社会人として基本的なことである。書類の書き方に関する文章表現や電話対応について常に勉強しておく。 3)毎回の予習復習時間は平均して1.5時間程度だが、開講スケジュールなどによって異なることから、必要に応じて指導教員より都度伝える。
ディプロマポリシーとの関連割合（必須）	知識・理解:10%, 思考・判断:30%, 関心・意欲:30%, 態度:15%, 技能・表現:15%
DP1 知識・理解	
DP2 思考判断	
DP3 関心意欲	
DP4 態度	
DP5 技能・表現	